

# 資源・エネルギー等の安定的かつ安価な輸入の実現に 向けた輸入拠点の整備と効率的な海上輸送網の形成 に関する取組状況について

## (国際バルク戦略港湾における取組)(報告)

国土交通省 港湾局

平成28年2月29日

# 国際バルク戦略港湾に係る取組経緯

## 1. 国際バルク戦略港湾に係る取組経緯

平成21年12月15日	第1回 国際バルク戦略港湾検討委員会 開催
平成22年 6月 1日	国際バルク戦略港湾を募集
平成23年 5月26日	第15回 国際バルク戦略港湾検討委員会 開催
平成23年 5月31日	国際バルク戦略港湾の選定結果を公表
平成23年 8月31日	国際バルク戦略港湾育成プログラム作成

## 2. 港湾法等関係法令の改正等

平成25年 6月 5日	改正港湾法 公布
平成25年11月29日	改正港湾法施行令・港湾法施行規則 公布
平成25年12月 1日	改正港湾法・港湾法施行令・港湾法施行規則 施行
平成25年12月19日	小名浜港を特定貨物輸入拠点港湾(石炭)に指定
平成28年 2月24日	釧路港を特定貨物輸入拠点港湾(穀物)に指定

## 3. 事業の実施

平成25年度～	小名浜港国際物流ターミナル整備事業(水深18m)着手
平成26年度～	釧路港国際物流ターミナル整備事業(水深14m)着手

## 4. 民間事業者による効率的な埠頭運営

平成26年 5月 7日	小名浜港(港湾管理者)が小名浜埠頭(株)を運営事業者に認定
平成27年12月22日	釧路市(港湾管理者)が釧路西港開発埠頭(株)を運営事業者に認定

## 5. 税制特例措置

平成25年 1月29日	特定貨物輸入拠点港湾における荷さばき施設等に係る税制特例措置等を規定した「平成25年度税制改正の大綱」を閣議決定
平成27年 1月14日	同特例措置の延長等を規定した「平成27年度税制改正の大綱」を閣議決定

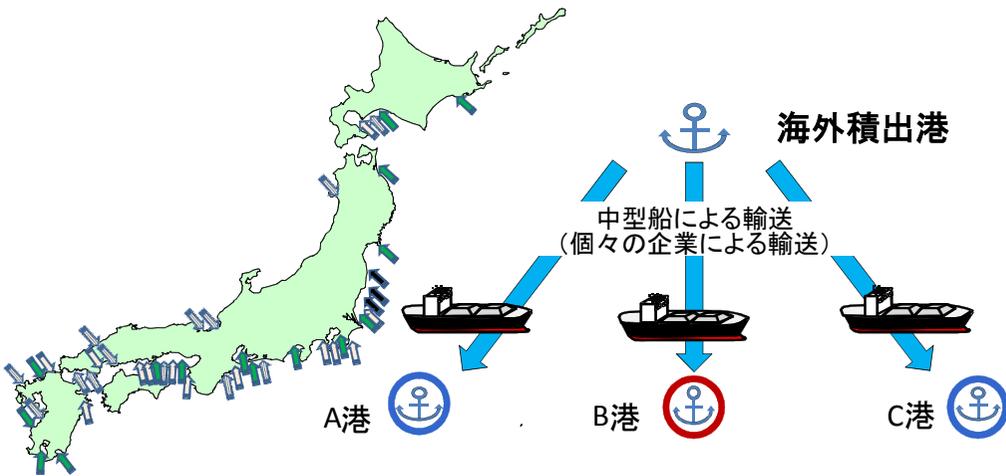
## 課題

- 我が国は、資源・エネルギー等のほぼ100%を輸入に依存。近年、近隣国の輸入量急増により、資源獲得競争が激化。
- ばら積み貨物船の大型化が世界的に進展している中、我が国では大型船に対応できる港湾は限定的。

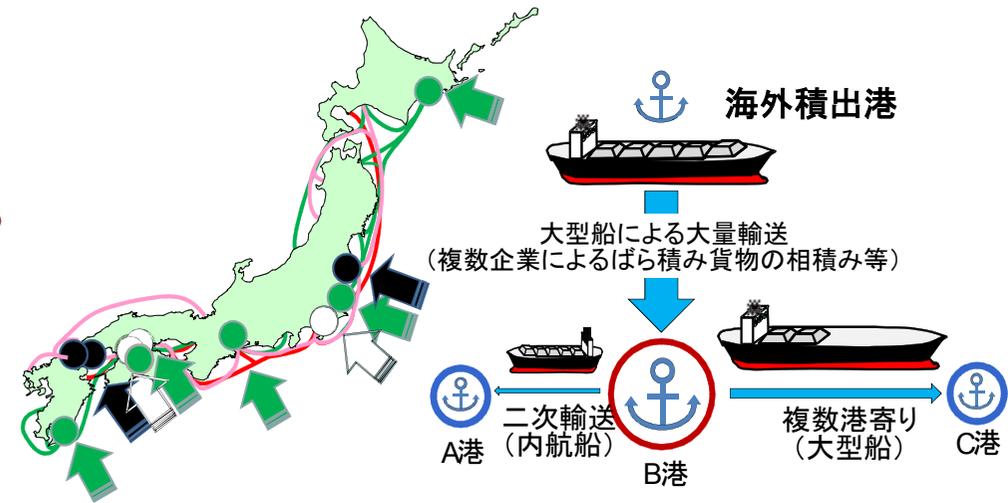
## 対応

### 企業間連携による大型船を活用した効率的な海上輸送網の形成を推進

これまで



これから

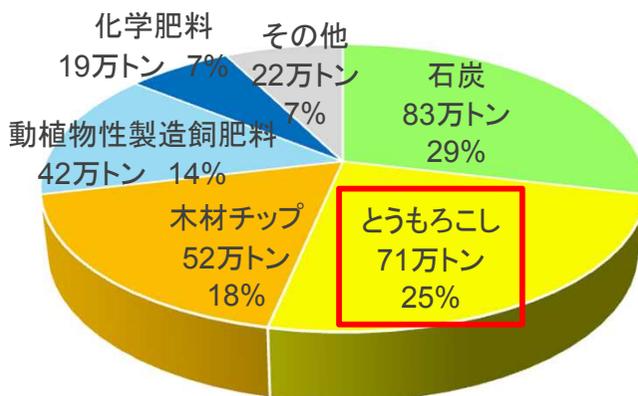


### 【具体的な取組の例】

- 資源・エネルギー等の輸入拠点となる港湾において大型船が入港できる岸壁等の整備
- 企業間連携による大型船での共同輸送の促進
  - 荷さばき施設等の整備に対する補助、税制特例措置 等

○釧路港は、我が国を代表する酪農地帯を抱え、年間、約71万トンの穀物(とうもろこし)を輸入している。  
 ○大型船で穀物を共同輸送することにより、約4割の海上輸送コストの削減が期待される。

## 【釧路港の輸入取扱品目(平成25年)】



出典:平成25年港湾統計年報

## 【整備箇所】

西港区第2ふ頭地区

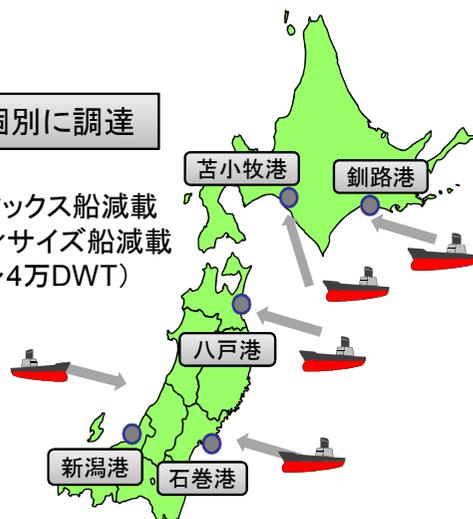


## 《現状》

各港において、ハンディサイズ船(3~4万DWT)等により穀物(とうもろこし)の調達をしている。

個別に調達

パナマックス船減載  
ハンディサイズ船減載  
(3~4万DWT)

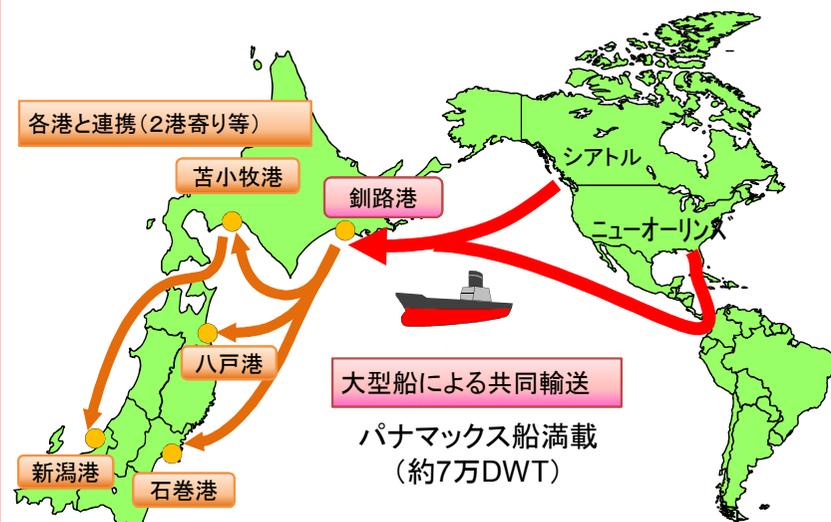


ハンディサイズ船  
(3~4万トン級)等で輸送

## 《将来》

釧路港に満載のパナマックス船が入港可能となることで、各港との連携による共同調達(2港寄り等)が可能となり、効率的な輸送網が構築され、海上輸送コストの削減が期待される。

各港と連携(2港寄り等)



大型船による共同輸送  
パナマックス船満載  
(約7万DWT)

約4割削減※

パナマックス船  
(約7万トン級)満載で輸送

大型船での共同輸送により海上輸送コストが削減

※ 国土交通省港湾局の試算(連携港で荷揚げする効果を含む)  
(出典:交通政策審議会港湾分科会第7回事業評価部会資料(H26.3.12))

公共: 大型船に対応した国際物流ターミナルの整備を推進。

民間: 大型船での輸送を見据え、背後立地企業においては貯蔵能力の拡大に向けた設備投資が進展。

## 公共事業

### 国際物流ターミナル整備事業

整備施設: 岸壁(-14m)、泊地(-14m)、  
航路・泊地(-14m)、荷役機械  
事業期間: 平成26年度～平成29年度  
総事業費: 182億円

## 民間事業

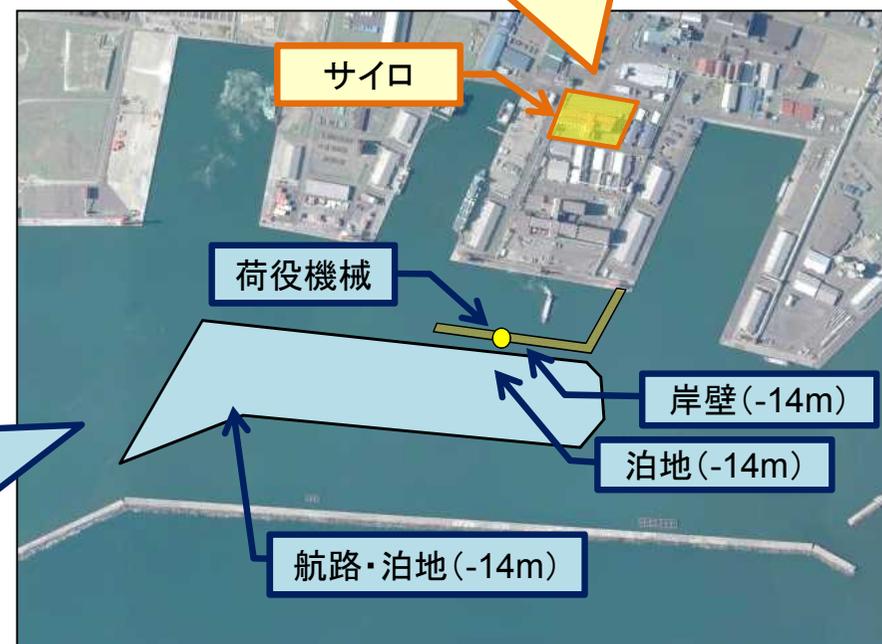
### 三ッ輪運輸(株)2号サイロの増設

整備施設: サイロ14基  
事業期間: 平成26年度～平成27年度  
総事業費: 20億円

### 三ッ輪運輸(株)2号サイロ



### 国際物流ターミナル整備事業



○民間事業者により一体的に埠頭を運営し、効率化を図ることを目的に、釧路市(港湾管理者)は、平成27年12月22日、釧路西港開発埠頭株式会社を運営事業者として認定した。



事業者	釧路西港開発埠頭株式会社
所在地	北海道釧路市新富士町100番17
設立	昭和44年6月6日
目的	1. 釧路港港湾施設の管理運営業務 2. 港湾建設合同事務所貸室業 3. 前各号に関する一切の業務
資本金	2,500万円
主要株主	釧路市 50%、 日本製紙(株) 20%、 王子マテリア(株) 20%、 三ッ輪運輸(株) 5%、 日本通運(株) 1.4%、他

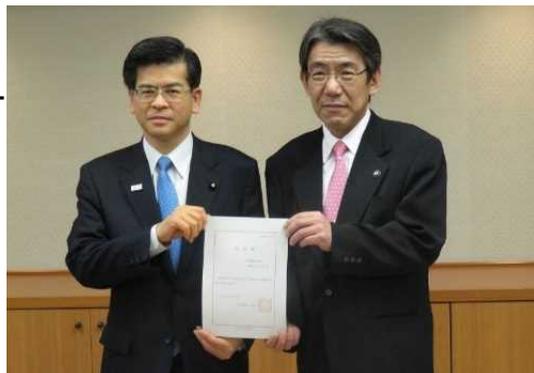
 民間事業者により一体的に埠頭を運営する範囲

○釧路港は、特定貨物輸入拠点港湾※(穀物)の指定要件を満たすに至ったことから、平成28年2月24日、国土交通大臣が指定を行った。

※ 特定貨物輸入拠点港湾とは、ばら積み貨物の海上運送の共同化を進め、輸入拠点としての機能を高めるべき港湾。

## 特定貨物輸入拠点港湾の指定(H28.2.24)

指定書の交付  
(H28.2.24)



石井国土交通大臣(左)、蝦名釧路市長(右)

## 特定利用推進計画の作成(H28.3以降)

港湾管理者が中心となり、ばら積み貨物の輸送の効率化のために取り組むソフト・ハードの計画を作成

計画作成の協議

特定貨物輸入拠点港湾利用推進協議会  
(港湾管理者、民間企業等で構成)

実施の協議

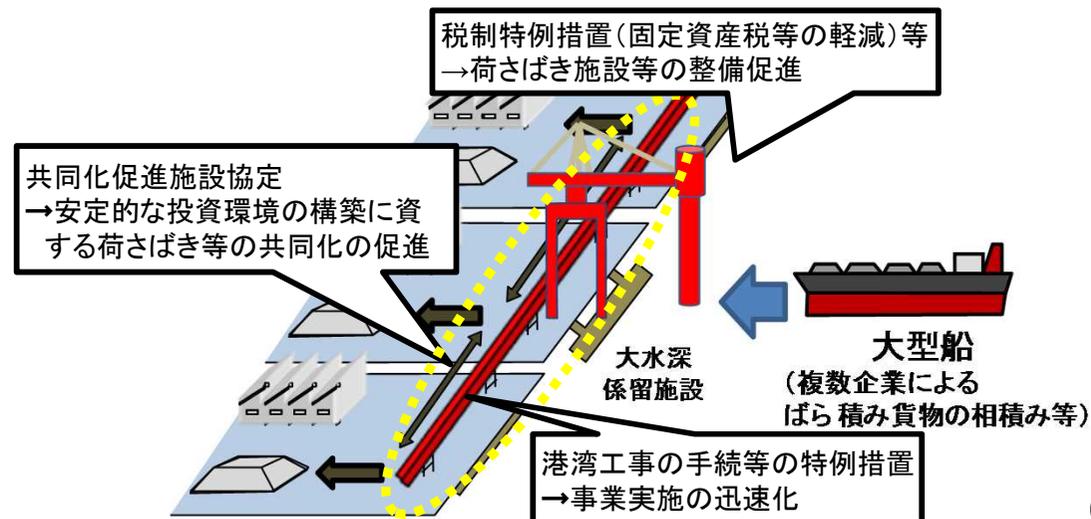
特定利用推進計画に基づく取組の推進

## 特定貨物輸入拠点港湾の指定の要件

- ・輸入ばら積み貨物の取扱量が相当程度見込まれること
- ・港湾計画に水深14mを超える係留施設が定められていること
- ・埠頭が同一の民間事業者により一体的に運営されること
- ・港湾管理者や企業間の連携が確保されていること 等

## 特定貨物輸入拠点港湾の指定のメリット

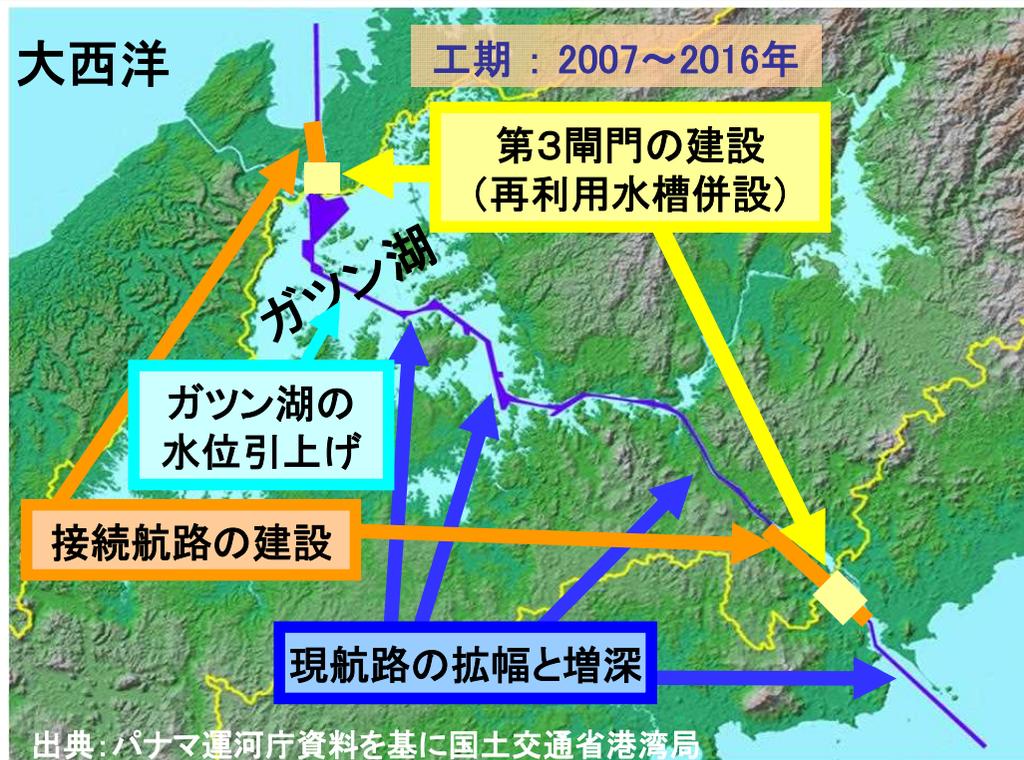
- ① 荷さばき施設等の取得に係る固定資産税等の特例 ※  
※荷さばき施設等に対して課する固定資産税又は都市計画税の軽減(課税標準となるべき価格の2/3)
- ② 港湾区域内の工事等の許可等の特例
- ③ 荷さばき等の共同化を促進するための施設の整備・管理に関する協定に係る特例(承継効)



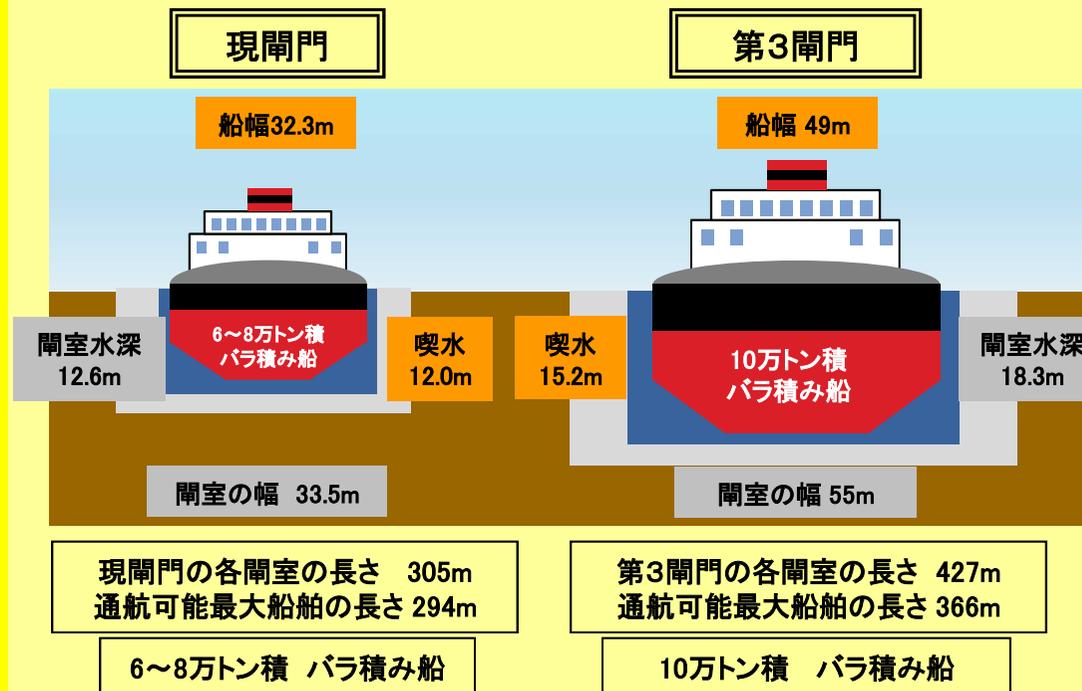
# 参 考 资 料

# パナマ運河拡張計画と大型化が進むバルク貨物船

○第3閘門の新設を中心とするパナマ運河拡張工事により、喫水15.2mの船舶が通行可能に。



## 現閘門(第1、第2閘門)と第3閘門(新設)との比較



## パナマ運河の竣工予定時期

当初計画	2014年10月
2014年変更	2015年12月
2015年変更	2016年4~6月

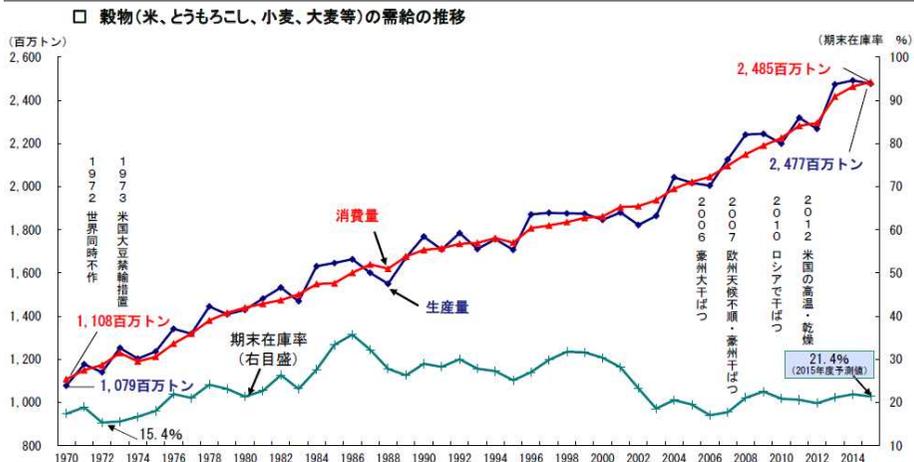


呼称 (船型:トン*1)	船型の例	穀物	鉄鉱石	石炭
パナマックス (船型:6~8万トン程度)	<7.4万トン級の例> 必要岸壁水深 14m程度 満載喫水 12.7m 全長225m	●		●
ポストパナマックス*2 (船型:10万トン程度)	<12万トン級の例> 必要岸壁水深 17m程度 満載喫水 15.2m 全長250m	●		●
ケープサイズ (船型:10~20万トン程度)	<15万トン級の例> 必要岸壁水深 19m程度 満載喫水 17.5m 全長270m		●	●
VLOC (Very Large Ore Carrier) (船型:20万トン以上)	<33万トン級の例> 必要岸壁水深 23m程度 満載喫水 21.1m 全長340m		●	

\*1 単位は載貨重量トン(DWT)。DWT(Dead Weight Tonnage)：貨物船に積載可能な貨物等の最大重量トン。主に貨物船の大きさを表す。  
\*2 現在工事中の新パナマ運河に対応した船舶。

## 世界の穀物需給の推移

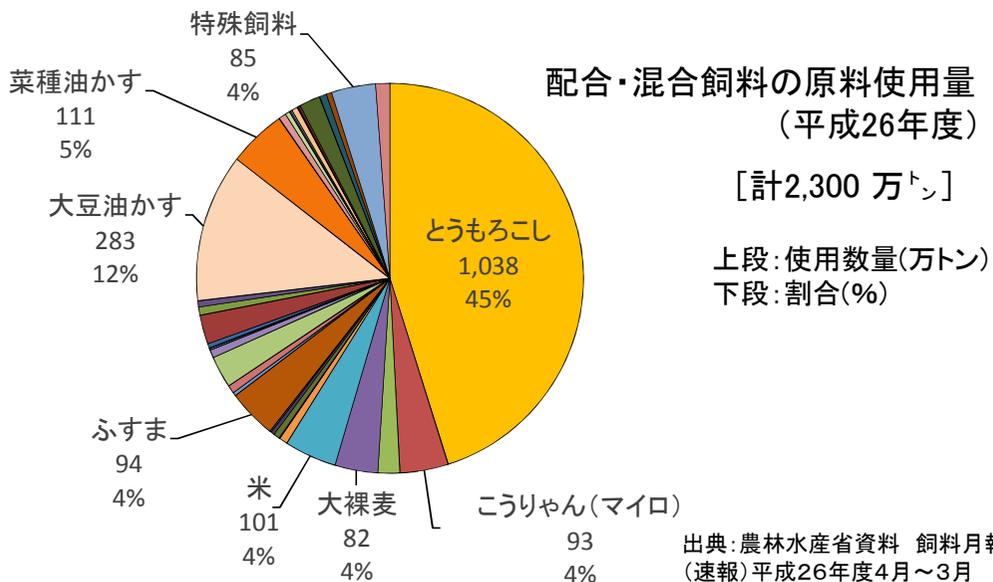
- 世界の穀物需要は、途上国の人口増、所得水準向上等に  
伴い、1970年に比べ2.2倍に増加
- 生産量は主に単収の伸びにより需要増に対応



出典: 農林水産省HP(穀物の需要量、生産量、期末在庫率の推移)

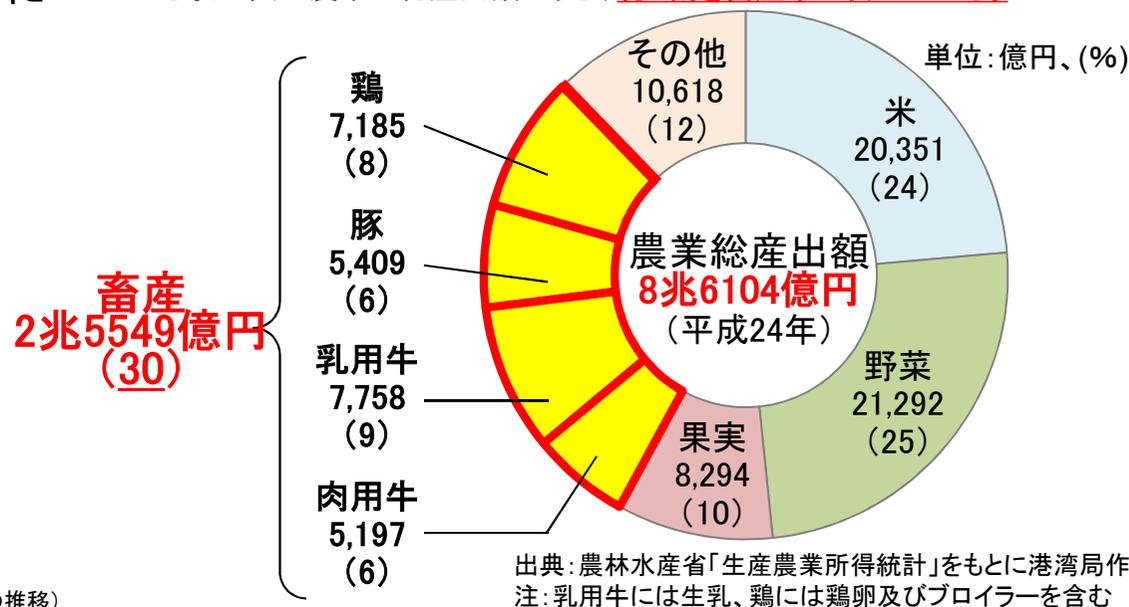
## 配合飼料に占めるとうもろこしの割合(重量ベース)

○畜産業の基礎となる配合飼料原料の約5割がとうもろこし



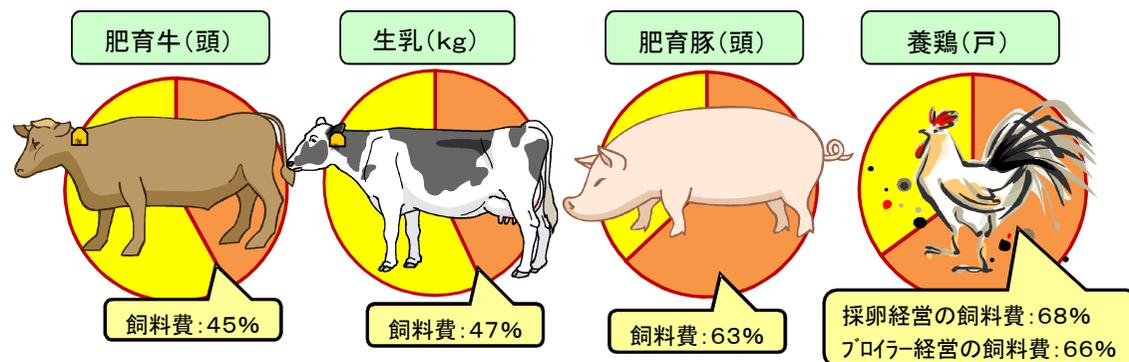
## 我が国農業における畜産業の役割

○我が国の農業の総産出額のうち、約3割を畜産業が占めている。



## 畜産経営コストに占める飼料費の割合

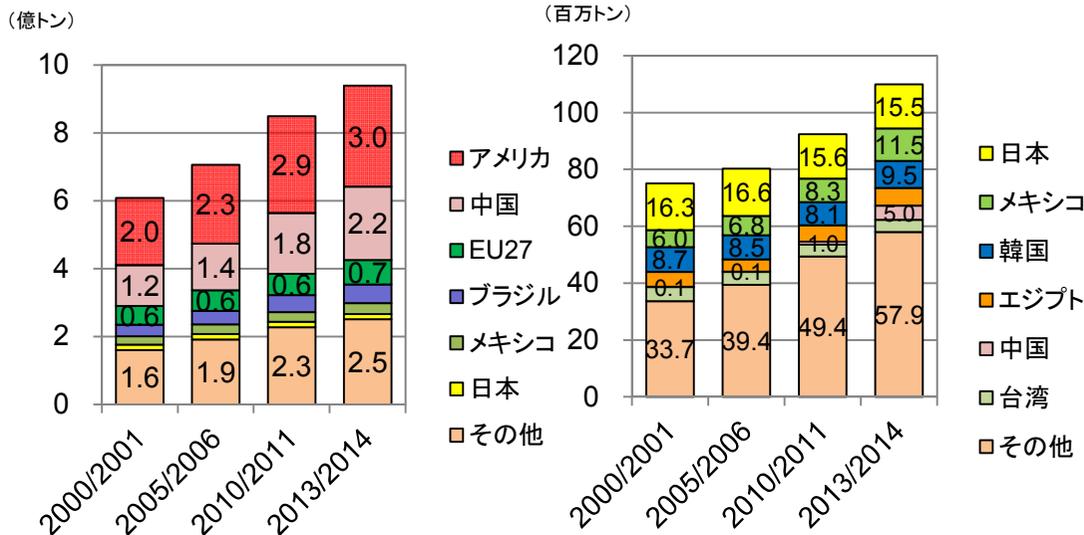
○畜産経営コストに占める飼料費割合は約4~7割と高い。



## 世界の穀物(とうもろこし)の消費・輸入の状況

【世界のとうもろこし消費量の推移】

【世界のとうもろこし輸入量の推移】

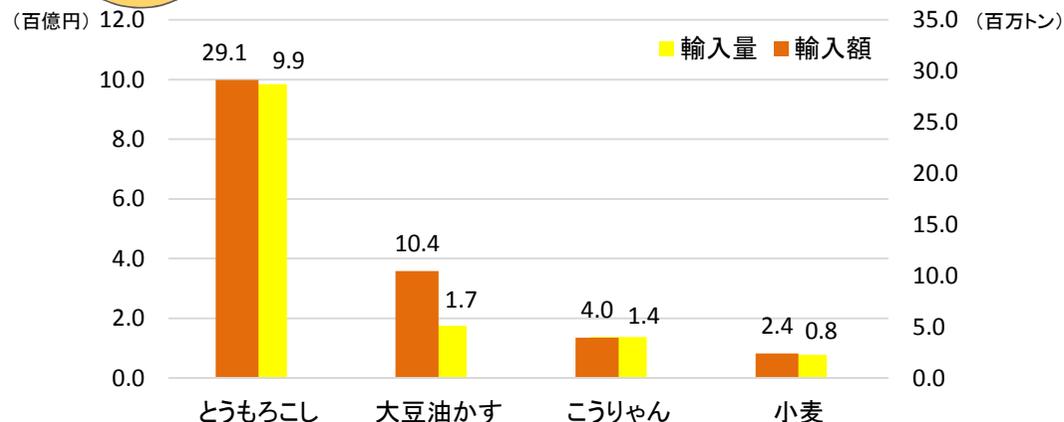


出典: USDA「PS&D」、農林水産省資料より国土交通省港湾局作成

## 我が国の飼料別輸入量・額の構成比(平成25年度)

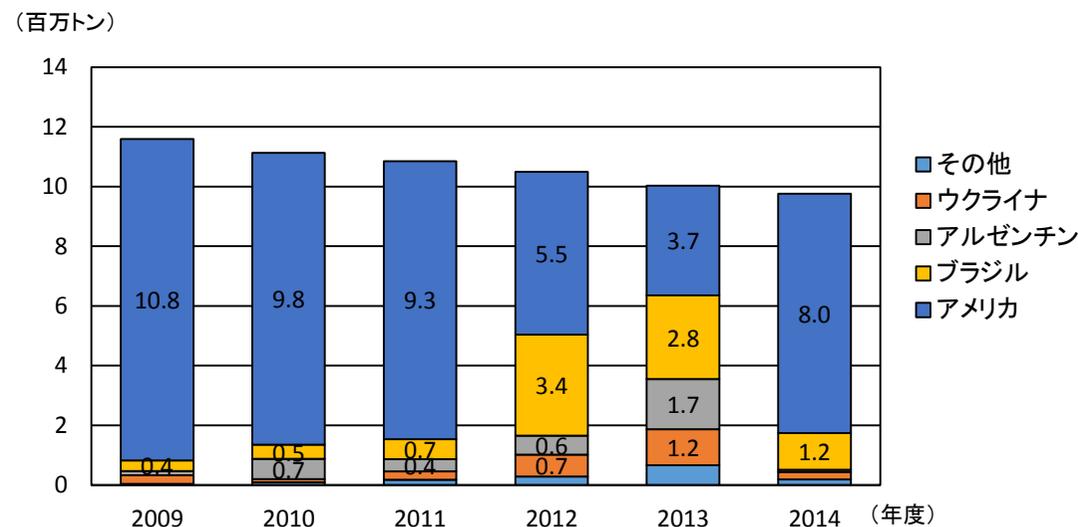


○我が国は、とうもろこしの100%を海外に依存。  
○飼料用とうもろこしの輸入量は飼料の中で最も多く、年間約1,000万トン。



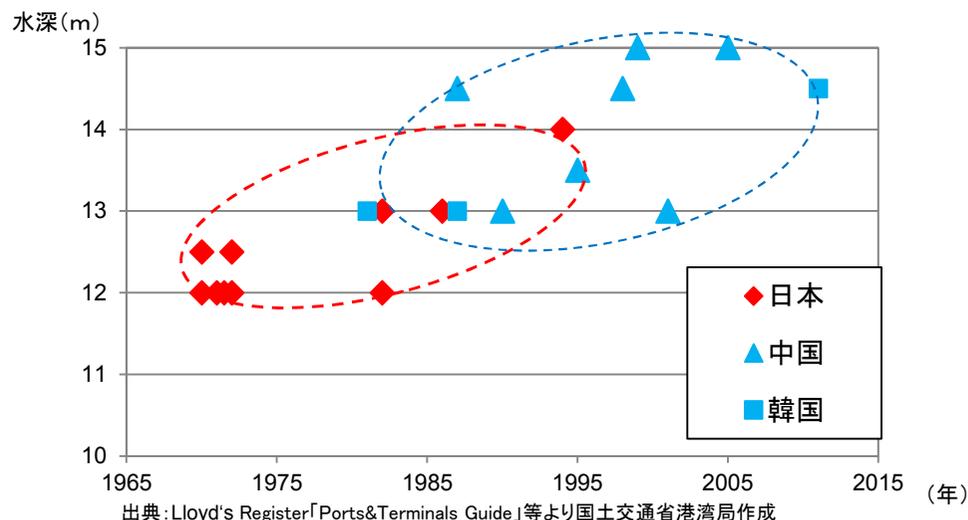
出典: 財務省「貿易統計」をもとに国土交通省港湾局作成

## 日本の飼料穀物(とうもろこし)の国別輸入量



出典: 財務省「貿易統計」をもとに国土交通省港湾局作成

## 穀物を取り扱う岸壁の水深と整備時期(近隣諸国との比較)

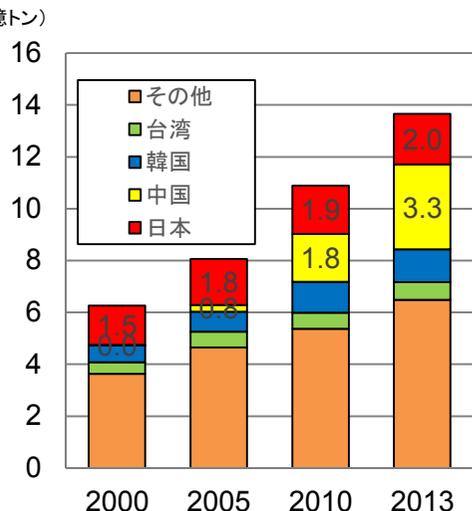


出典: Lloyd's Register「Ports&Terminals Guide」等より国土交通省港湾局作成

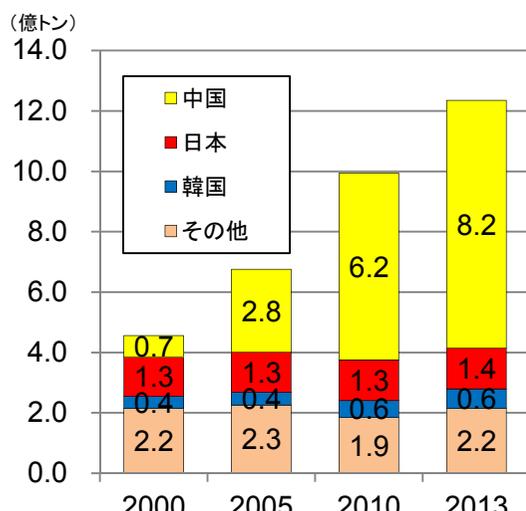
## 資源・エネルギー等の輸入の状況

○近年、中国の石炭・鉄鉱石輸入量が急速に増加。

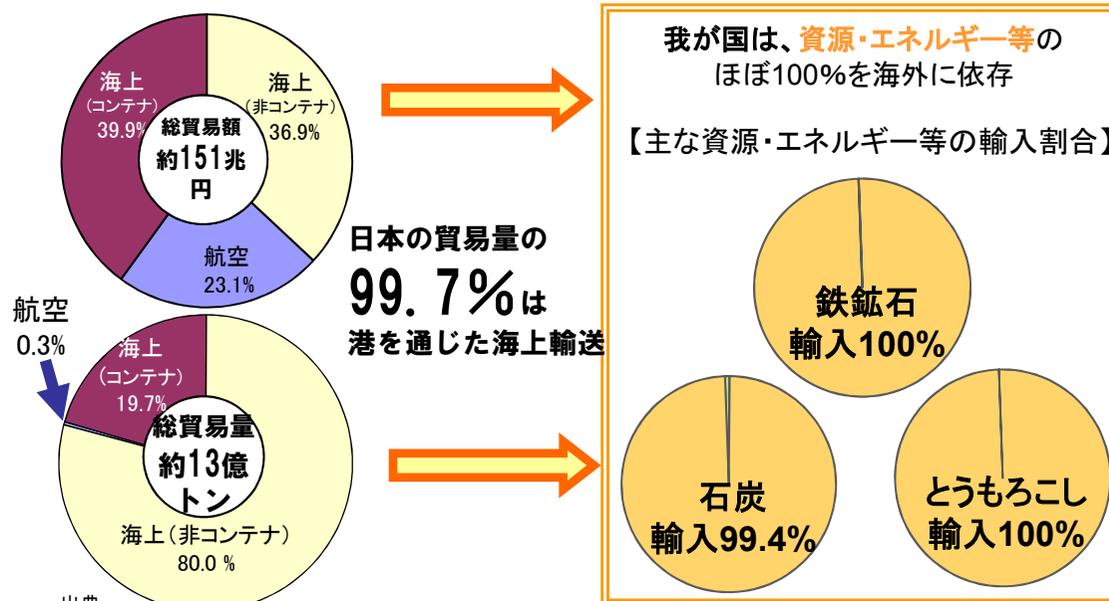
世界の石炭輸入量の推移



世界の鉄鉱石輸入量の推移



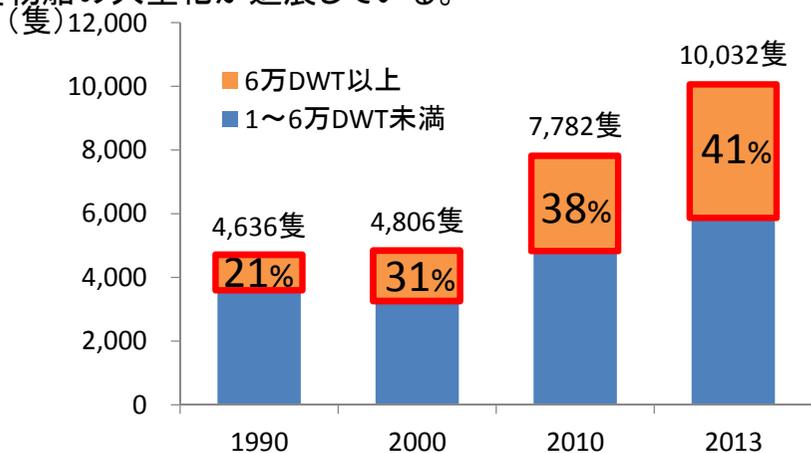
## 我が国の貿易量・貿易額の構成比



出典  
 ・総貿易額：港湾統計(2012年)・総貿易額：貿易統計(2013年)・海上コンテナ・海上非コンテナ比率：港湾統計(2012年)  
 ・航空・海上比率：海事レポート及び貿易統計をもとに国土交通省港湾局作成(2012年)

## ばら積み貨物船の大型化

○近年、世界的なばら積み貨物の「荷動き量の増大」と「輸送距離の延長」を背景に、一括大量輸送によるコスト低減を図るため、ばら積み貨物船の大型化が進んでいる。



## 石炭(一般炭)取扱岸壁の水深と整備時期(近隣諸国との比較)

○日本の主要な一般炭の取扱岸壁は、近隣諸国と比較して整備年が古く、岸壁水深も浅い傾向にある。

